

愛荘町いきいきホッとプラン
【高齢者保健福祉計画および第6期介護保健事業計画】
に係るパブリックコメント（意見募集）の結果について

貴重なご意見・ご提案をいただき、誠にありがとうございました。

お寄せいただいたご意見・ご提案の内容と、それに対する本町の考え方を取りまとめましたので、お知らせいたします。

- 1 意見募集期間 平成27年1月7日～平成27年1月28日
- 2 意見提出者 1名
- 3 意見件数 5件
- 4 意見内訳

番号	項目	意見等の内容	本町の考え方
①	全体	計画案は、内容盛り沢山で大変でしょうが、着実に進めて下さい。 当町においても、今後、少子高齢化が進み、超高齢化社会となると考えられますので、福祉事業・介護事業・介護施設の増設等に、地方創成事業費を活用出来ないでしょうか。	各施策の事業スケジュールに基づき実行してまいります。 地方創生事業の活用については、国の総合戦略に基づく取り組みを町で検討し行っていく予定です。 介護施設等の整備に関しては、消費税増収分を財源として活用される地域医療介護総合確保基金より助成を受ける予定です。
②	介護予防の充実	40歳になった時点の人を対象に、介護予防・認知症予防・介護保険制度（特に利用の仕方）・在宅医療体制・訪問診療体制の説明会を行う。 40歳になると介護保険の被保険者となります。また、両親が高齢者の仲間入りをする時期でもあろうかと思われまますので、介護や認知症や在宅医療等についての知識を周知する必要を感じております。	40歳を限定とした説明会については、現在のところ考えておりませんが、各地域で状況や課題が異なるため、介護や認知症、在宅医療等についての啓発活動も含め、各集落の10年先・20年先を考える機会として、年齢を問わない方を対象とした出張啓発事業を行ってまいります。
③	介護予防の充実	各種健診（検診）時にロコモシンドロームの人やなりそうな人を発見し、ならない様に又はなる時期を遅らせるように指導する。 早期からのロコモシンドローム対策により、要支援者・要介護者を少なくすることが必要と感じております。	生活習慣病健診や特定健診、骨粗しょう症健診等を実施し、生活改善に必要な知識や技術の普及のため、健康教室、栄養相談、健康相談を行ってまいります。 65歳到達者（早期）ならびに75歳到達者（節目）の方には、生活機能チェックリストを実施し、ロコモティブシンドロームだけでなく、口腔・栄養・うつ・閉じこもり、認知症予防に向けての指導（啓発活動）を行ってまいります。 チェックリストの結果により支援の対象となった方には、運動教室や脳の健康教室「悠々教室」の積極的な参加を勧奨し、要支援・要介護状態になるのを少しでも遅らせるための事業を行ってまいります。

④	認知症対策の充実	<p>各種健診（検診）時に軽度認知症を発見する診査を行い、可能性のある人に対しては個別に指導し、認知症にならない様にする。</p> <p>アルツハイマー病は、発病すると根治できませんので、早期発見・早期治療が必要です。健康保健事業かもしれませんが。</p>	<p>現在、特定健診では将来の認知症予防を見据えて、認知症の発症リスクを高める生活習慣対策を重点に取り組んでいます。</p> <p>早期発見については、生活機能チェックリストの実施に加え、75歳到達時に認知症チェックリストを実施し、認知症の疑いのある方が早期に医療機関を受診し、早期治療に結びつくよう勧奨するとともに、啓発用パンフレットを配布予定です。</p>
⑤	認知症対策の充実	<p>認知症の疑いのある方を発見したり申告があった場合には、支援チームが家族と連絡を取り医療機関の受診の応援をしたり、介護者や家族に対応の仕方等を指導する。</p> <p>認知症の本人は、自分の変化に気付き受診拒否や苛立ちによる行動心理病状が見られる場合があって、介護者は途方にくれることがあります。</p>	<p>医療・保健・介護の専門職で構成する初期集中支援チームによる訪問によって、医療機関への早期受診への働きかけや、行動心理症状のみられる時に迅速に対応できる体制を整えていくとともに、認知症理解の啓発や認知症サポーターの養成に努めます。</p> <p>特に、介護者や家族の方の介護疲れが少しでも軽減するよう、引き続き、介護者お元気訪問事業・高齢者訪問事業、介護者友の会「ひまわり」など、在宅介護者支援の充実に努めます。</p>